

crystals of the protolichesterinic acid type in GE. On the other hand, it gives three spots on the thin layer chromatograms as seen in the case of *Cetraria islandica* var. *orientalis* (Kurokawa, S. & R. B. Filson: New species of *Parmelia* from South Australia. Bull. Natn. Sci. Mus., ser. B, 1: 35-48. 1975).

Specimen examined. Nagano Pref., on summit of Mt. Senjogatake, Kami-
Ina-gun, elevation about 3030 m, K. Yoshida 4011 (TNS). Exsiccati examined.
Krypt. Exs. Vindobonensis 3065-a and 3065-b (TNS, as *Cornicularia tenuissima*).
Brodo, Lich. Canad. Exs. 110 (TNS).

1979年に、筆者は南アルプス仙丈ヶ岳（標高 3033 m）頂上付近の岩上で、コケと混生していた日本産未記録の *Cornicularia aculeata*（新称：タチクリイロトゲキノリ）を採集した。本種は擬歪点が入り、基部近くではときに穿孔状になっていることやトゲ状の短い分枝があることなどから他の *Cornicularia* とは容易に区別できる。なお、本種の成分はプロトリケステリン酸系の脂肪酸である。（埼玉県立 自然史博物館）

□Weete, John D.: **Lipid biochemistry of fungi and other organisms.** 12+388 pp. 1980. Plenum Press, New York. \$45. 数年前に出版された *Fungal lipid biochemistry* を一般に理解し易いように編集し直したものの。菌類および関連微生物の代謝産物である lipid の分布、生化学を中心にして述べてある。Lipid を分けて fungal lipids, fatty acids, acylglycerol と関連 lipid, glycerophospho-lipid, sphingolipid, sterol, carotenoid, polyphenol 等とし、これらが如何なる菌、菌体内の如何なる部分に分布するかを述べ、その生化学的記述を行なっている。最後に菌類の発育段階に於ける代謝を記してある。巻末に委しい文献表と索引を附してある。（小林義雄）

□佐竹義輔・大井次三郎・北村二郎・亘理俊次・冨成忠夫（編）：**日本の野生植物 I 草本単子葉類** (Satake, Y., J. Ohwi, S. Kitamura, S. Watari & T. Tominari (eds.): *Wild flowers of Japan, I, Herbaceous plants, Monocotyledoneae*) 305 pp. 1982. 平凡社, 東京. ¥12,000. このシリーズの第1巻であって、単子葉類を扱っており、また総索引がついている。山下貴司のヒルムシロ科やホンゴウソウ科、佐竹義輔のユリ科やホンシクサ科、大井次三郎のイネ科やカヤツリグサ科、大橋広好のサトイモ科、及び里見信生のラン科と中々面白い組合せである。大体の様式は初巻と同じであるがイネ科やカヤツリグサ科、それにヒルムシロ類など写真を揃えるのに苦心をしたろうことが察せられ、それだけに貴重な貢献である。写真を示されることが少なかった類であるから、カラー写真の添った記載は新しい魅力と深い印象とを以て鑑定するものにせまってくるであろう。（前川文夫）